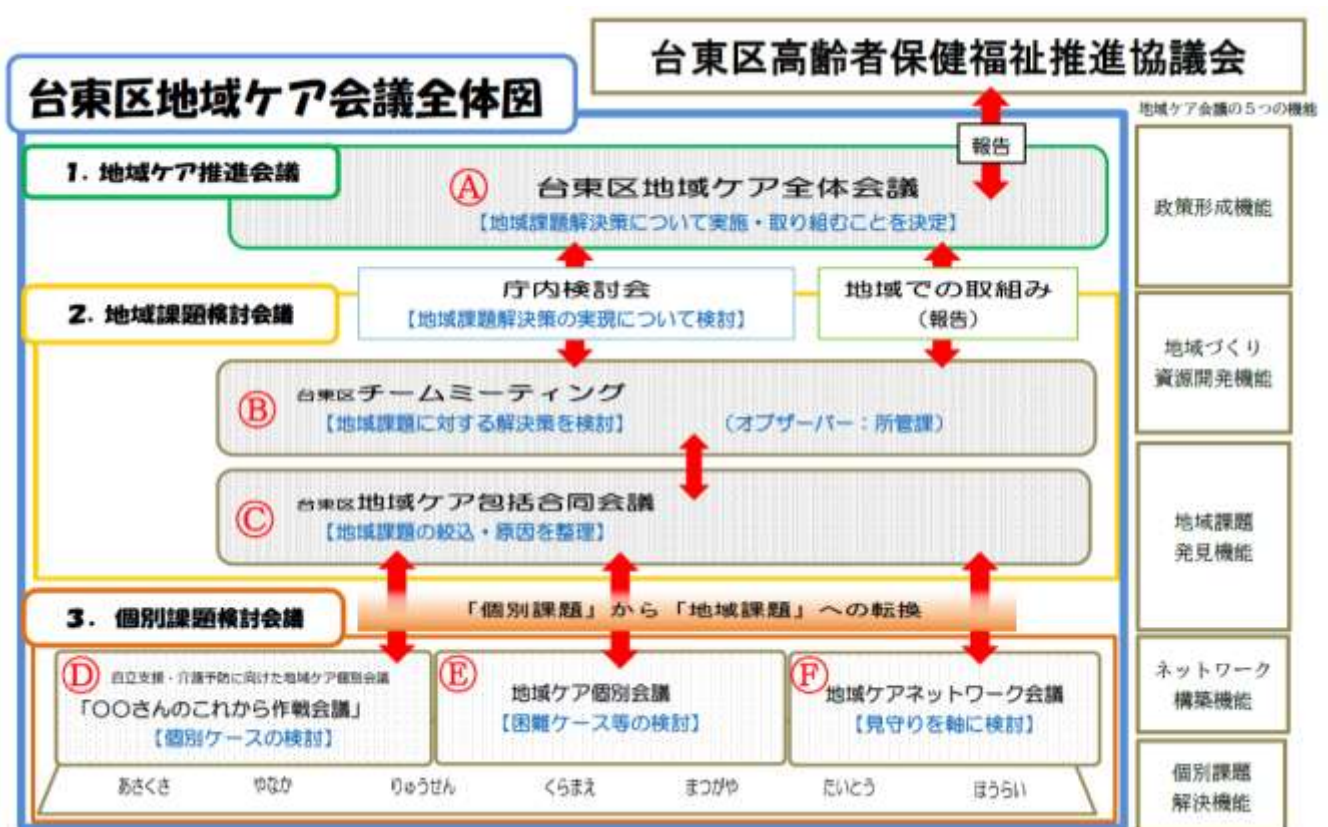


令和7年度 地域ケア会議の検討状況

～課題解決に向けた新たな取り組み“大江戸清掃隊”～

令和7年度第2回 地域ケア全体会議
 令和8年2月25日(月)1001会議室
 高齢福祉課 総合相談・給付担当



<過去の報告①>

地域ケア会議の枠組みを利用し、個別課題から検討を重ね、新たな取り組みを行ってきた。

①“歩行の機会”を増やす取り組み ※R5～6年度にかけて報告

R3・4年度の④「〇〇さんのこれから作戦会議(以下〇これ)」では、“歩行”に関する目標を設定しているケースが多いことに着目



R5年度 第1回③地域ケア包括合同会議では、台東区の資源を巡る企画
歩くとポイントがもらえる企画 などの案が挙がった

誰が主体となるのか？スマホやアプリを活用する場合予算は？
→課題が多く先に進むことができなかった…

<過去の報告① 続き>

そんな中、介護予防担当で「ICTを活用した介護予防活動の創出」を進めていたため、アプリを活用した事業を一緒に検討することになった。



R5年度 第2回③地域ケア包括合同会議

R5年度 第1回②チームミーティング

介護予防を目的としたアプリの活用
=目的が一致

にて内容を検討

★ICTを活用した介護予防活動支援事業

R6年度の区の新規事業:スマートフォンアプリ「**みんチャレ**」の活用

※「みんチャレ」とは？

スマホで楽しくやり取りをしながら、運動やウォーキングの習慣を身につけることができるアプリ。アプリ内で貯めたポイントを寄付することができ、社会貢献にもつながる。

<過去の報告②>

②気軽に身近な場所で“リハビリ専門職からのアドバイス”が得られる場

R5年度の①〇これでは、理学療法士がシルバーカーの調整、使い方を助言したことで姿勢が劇的に改善した事例があった。

“要支援1・2”の方は利用できる介護保険サービス量が少ない。

⇨リハビリ専門職との関わりが少なく自己判断→要介護状態への悪化につながると仮定



R5年度 第2回③地域ケア包括合同会議

R5年度 第1回②チームミーティングにて取り組みについて検討



本人の体に合ったシルバーカーの使い方について、専門職によるチェックと助言の場の創出を企画し、R6年度中にモデル実施と効果検証を行うことになった。

<過去の報告② 続き>

R6年8月 区役所で「リハビリ専門職によるシルバーカーの使い方講習会」を実施

<参加者の声・ニーズ>

高齢者:気軽に身近な場所でアドバイスしてくれる人がいると助かる。

使い方を忘れてしまう。

専門職:実際に高齢者がシルバーカー等を使っている生活場面を見ることができた。

これまで関わりのなかった人にも自らの専門性を活かすことができる。



高齢者が地域の身近な場所で定期的に専門職からのアドバイスを得られる場があれば、介護予防の取り組みのひとつになると考えられる。



★地域向けのイベントを開催している組織に対し、高齢者と専門職のニーズを提供。

現在、区内の複数の病院等で開催している既存のイベントの中に福祉用具や歩行についてリハビリ専門職(理学・作業療法士)に相談できるブースを設けている。

介護予防や地域貢献の観点で、様々な取り組みのきっかけに◎

<令和7年度>

過去の **3.個別課題検討会議** で抽出された課題を整理し、**新たに**地域課題となり得るものを **㉓地域ケア包括合同会議** で検討することになった。

個別課題➡地域課題になり得るものを整理①

●令和5・6年度に実施した **㉓**これに参加した専門職のアンケート

- ・コミュニケーションの場
- ・初めの一歩として外出できる場
- ・ちょっとした外出先

の確保が必要ではないか

➡**高齢者が気軽に交流・外出できる場が必要**なのでは
とのご意見があった。

個別課題➡地域課題になり得るものを整理②

●地域包括支援センターが課題だと感じていること

- ・交流の場、社会参加できる場がない
- ・予約なしで気軽に集まれる場所がない
- ・現役引退後の男性の居場所が少ない
- ・閉じこもりの高齢者がふらっと寄れる場所がない など

➡ほとんどの地域包括支援センターが「身近に交流・参加できる場がないこと」が課題であると認識していた ≡ ⑩〇このアンケートとも一致

●一方、区内で「“通いの場”ができてにくい」という課題があった。

交流・参加できる場を作りたくても、
運営の中心となる人・提供してくれる場所がない…

課題の解決へ向けて

高齢者が身近で気軽に交流・参加できる場を作るには？

<地域包括支援センターからの解決案のひとつ>
交流の場を作る担い手(中心となる人)がいないため、
包括・法人が実施主体となり、
地域の方と散歩や見回りをしながらゴミ回収などをする

に着目

実現できそうな既存の社会資源はあるのか…？

高齢福祉課でも検討してみました！

第1回◎地域ケア包括合同会議(R7年8月28日)にて 大江戸清掃隊の活用を提案

・大江戸清掃隊とは…？

➡環境課(まちの美化担当)の事業で、定期的な自主清掃ができる。

包括・法人などが申込み登録をする➡一緒にできる人を勧誘する。

※清掃用具・ユニフォーム(お揃いの半てん・たすき)は環境課から支給されます。

目的	対象	場所	法人・包括のメリット
集いの場 他者との交流 社会貢献・地域貢献・ 閉じこもりや孤立防止	・掃除ができるADLの方 ・一人でも参加できるため、 男性も参加しやすい	各施設の周辺の公道・公園など 会議室など場所を準備する必要がない！	社会貢献・地域貢献活動 (CSR活動) ➡ホームページなどでPRすることができる

通りすがりの人にお礼を言われることも！=生きがい作り

※直ちに活用できる取り組みであったため、◎チームミーティング、
◎地域ケア全体会議を通さずに各法人と調整を行うこととした。

<各法人で検討の結果>

◎大江戸清掃隊を活用する包括 ※法人で登録

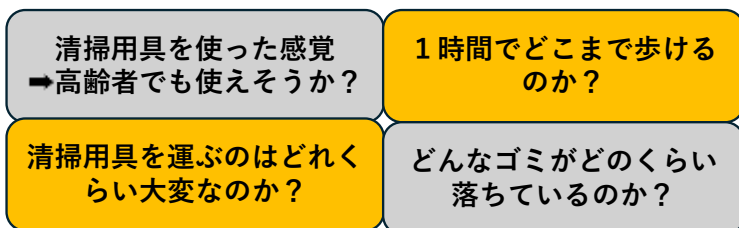
➡あさくさ・りゅうせん・たいとうにご賛同いただけ

大江戸清掃隊の活用の提案に至るまでの経緯や法人側のメリットを施設長にも説明し、ご理解いただいたうえで、実施して頂けることに。

職員同士の交流の
きっかけにも！

◎まずはR7年11月中に法人職員のみで清掃を実施

※包括職員だけでなく、同じ建物内の特養や事務職員も行う



実際に職員が清掃を行い、その体験をもとに、頻度・場所・対象者などを考えていく！

<期待できること>

◎R7年11月の実施の結果を踏まえ、各法人(包括)単位で大江戸清掃隊として活動して頂くことで、**高齢者も気軽に参加できる場**にもなるのではないかと期待している。

≡ **地域課題(高齢者が身近で気軽に交流・参加できる場がない)**に対する取り組みの一つになる

<現状の報告>

法人名(包括名)	実施状況
フレスコ会 (あさくさ)	<ul style="list-style-type: none">・毎月第4木曜日の13時～14時の間で実施。・11月と12月に実施しており、包括職員に加えて施設のドライバーやフレスコ浅草、その入居者が参加。あさくさ包括(特養浅草)周辺や千束商店街の清掃をしている。・法人で登録しているため、今後は特養浅草、フレスコ浅草のエリアごとに地域の方も巻き込んで取り組みたいと考えている。
台東区 社会福祉事業団 (りゅうせん)	<ul style="list-style-type: none">・毎月第2土曜日(9時～9時半)に地域住民とともに実施。毎月第4土曜日は町会と一緒に実施。 ※ともに雨天中止・包括の広報誌や特養竜泉の面会スペースにチラシを配架し周知をしている。黙々と取り組んでいる方が多い印象。
健修会 (たいとう)	元浅草や東上野のエリアで大江戸清掃隊の活動をしたいと考えているが、道具がかさばり移動が大変だと感じている。現時点では職員のみで実施中。